

水性塗料用現場添加型防カビ防藻剤

アステックプラスSW



水性塗料用の防カビ防藻添加剤で、塗料に混ぜることにより防カビ・防藻性能が発揮されます。

◆ 製品データ

荷 姿	20L用 — 110g
	16kg用 — 80g
	15kg用 — 75g
	4L用 — 22g
	4kg用 — 20g
3.2kg用 — 16g	
添加量	塗料に対して0.5%
色	オフホワイト

◆ 適応上塗材

EC-5000PCM-IR/EC-100PCM
超低汚染リファイン1000/500MF-IR
超低汚染リファイン1000/500SI-IR
フッ素REVO1000(-IR)
シリコンREVO1000(-IR)
スーパーラジカルシリコンGH
マルチエースII
エクسفライン艶消

※新製品が出るたびに適応上塗材は増える場合がございます。

【試験結果】

■『防カビ性』合格 ※社内試験による
(参考試験方法: JIS Z 2911 カビ抵抗性試験方法、MIL変法)

■『防藻性』合格 ※社内試験による

※下記製品にはアステックプラスSWを使用できません。

- ・超低汚染リファイン弾性1000MS-IR
- ・超低汚染リファイン艶消1000MS-IR
- ・無機ハイブリッドウォール
- ・スーパーSDクリヤー無機

※上記以外の製品への添加可否につきましては、一度アステックペイントにご確認ください。

【注意事項】

- ・使用前にアステックプラスSWをよく振ってからご使用ください。成分が沈殿している場合があります。
- ・アステックプラスSWを添加すると塗料の粘度が低下します。
- ・一液塗料の場合、塗料にアステックプラスSWを添加したのち攪拌し、粘度を確認しながら水希釈を行なってください。
- ・二液塗料の場合、A液に対してB液、アステックプラスSWを添加したのち直ちに攪拌し、粘度を確認しながら水希釈を行なってください。
- ・塗料に添加後、塗装までに時間が経ってしまった場合は再度攪拌し直してから塗装してください。
- ・他社塗料にアステックプラスSWは使用しないでください。相溶性・性能への影響が確認出来ておりません。
- ・カチオン系塗料にアステックプラスSWは添加できません。
- ・アステックプラスSWを添加した塗膜に汚れが堆積した場合(特に屋根等)は効果が発揮されない可能性があります。
- ・アステックプラスSWを多く添加してしまった場合、耐候性が低下する可能性があります。
- ・上塗材に添加して、2回塗装を行ってください。1回塗装の場合では効果が期待できない場合があります。

■ 製品については下記までお問合せください。



製造・販売元 株式会社 アステックペイント

〒812-0013

本社 福岡県福岡市博多区博多駅東3-14-1 9F

astecpaints.jp

ver.202401

水性塗料用現場添加型防カビ防藻剤

ASTEC PLUS SW

— アステックプラスSW —



約2,000種ものカビ、藻類等に効果を発揮

水性塗料用現場添加型防カビ防藻剤

アステックプラスSW

一般的な建築物から高い頻度で検出されるカビの種類は60種と確認されています。

しかし、市場に多く流通している一般的な防カビ・防藻剤では約32種の菌に対する阻止効果しかありません。

アステックプラスSWは検出頻度の高い60種を含んだ約2,000種ものカビ、藻類等に効果を発揮。

建物の美観維持に貢献します。



アステックプラスSWの特徴

防カビ性

一般的なシリコン塗料とアステックプラスSWを添加した二液塗料を塗った試験体を用いてカビの発生具合を比較(MIL変法*に準拠した自社試験)。アステックプラスSWを添加した塗膜は培養1か月経過後も塗膜にカビが発育しておらず、カビの発育が抑制されています。

※一般的なカビ抵抗性試験方法である「JIS Z 2911 カビ抵抗性試験方法」よりも非常に厳しい条件下で実施される試験。住宅環境において検出頻度の高い60菌を含んだ計71菌混合で防カビ性能を比較する試験方法。



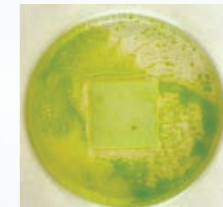
添加なし



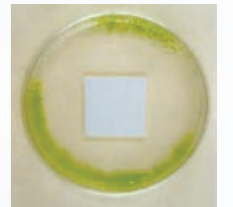
アステックプラスSWを添加したサンプル

防藻性

一般的な塗料とアステックプラスSWを添加した二液塗料の塗膜を用いて比較試験を実施。アステックプラスSWを添加した塗膜は培養1か月経過後も塗膜に藻が発育しておらず、藻の発育が抑制されています。



添加なし



アステックプラスSWを添加したサンプル

持続性

アステックプラスSWは一般的な防カビ・防藻剤と比較して、有効成分の流出速度(流れ出る速さ)が非常に遅いという特徴があります。この性質により有効成分が流出しづらく、効果が長期間持続します。

安全性

日本食品分析センターの急性経口毒性試験にてLD50(致死率50%以上となる量)=5000mg/kg以上であることを実証済み。この数値はカフェインや食塩などよりも毒性が低く、安全であることを表します。

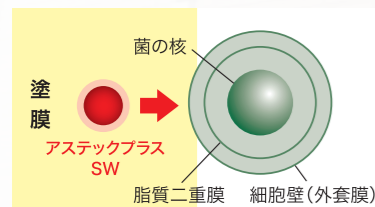
き ひ

忌避効果により高い防カビ・防藻効果を発揮

忌避効果とは?

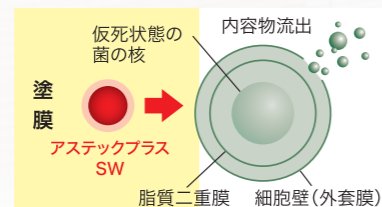
アステックプラスSWの成分によって仮死状態となった菌が危険信号を出すことで、同種の菌を寄せ付けないようにする効果。

STEP 1



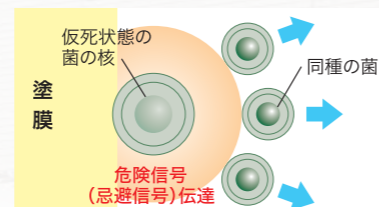
アステックプラスSWの成分が塗膜に付着した菌の細胞壁(外套膜)を破壊。

STEP 2



細胞壁を破壊された菌は仮死状態となる。

STEP 3



仮死状態となった菌が同種の菌に危険信号(忌避信号)を発信するため同種の菌が寄り付かなくなる。これにより菌が付着しにくい強力な防カビ・防藻効果を持った塗膜を形成します。

■他の薬剤との比較

名称	アステックプラスSW	アステックペイント従来品	一般的な防カビ剤	無機系薬剤
全対応菌数	約2,000種	703種	32種	10種
対応真菌(カビ)類	約1,000種	419種	32種	10種
対応藻類	約200種	58種	0種	0種
流出速度	3ppm	3ppm	3,000ppm	—